



第1部 経営研修会 17:30開会 17:40講演開始

■ 講演テーマ 『オリンピックの魅力・金メダルの取り方、取らせ方』

■ 講師 学校法人医療創生大学 常務理事 特任教授 **田口 信教先生**

田口 信教(たぐち のぶたか)プロフィール

1951年に愛媛県生まれ。広島育ち。鹿児島在住35年間。現在、いわき市在住6年目、世界新記録でオリンピック金メダリスト。広島修道大学大学院商学修士。卒業後、建設会社フジタの営業マンを経て、米国に国費留学、帰国後、国立で唯一の鹿屋体育大学の開学に合わせて招聘され、競技能力向上の研究や海洋センター長、図書館長、学長補佐など、定年退職後、医療創生大学特任教授・副学長に就任、現在、常務理事。

【スポーツ歴】

総理大臣・銀杯賞文部大臣・スポーツ功労賞・日本最優秀スポーツ賞(読売新聞社)朝日スポーツ賞(朝日新聞)・最優秀スポーツ賞(中国新聞社)・愛媛新聞社賞・スポーツ賞ホワイトベア・スポーツ賞(デイリースポーツ)・その他多数受賞、昭和62年 Honor Swimmerを受賞・国際水泳殿堂入(アメリカ)・平成14年愛媛県西条市名誉市民賞・鹿屋体育大学名誉教授

ご講演

質疑応答

— 休憩 —

第2部 懇親会 19:20開宴

ビジター紹介

乾杯

会食・懇談タイム

閉会のことば

お伝えしたい事

どのようにしてオリンピックに育つのか？ その仕組みを知れば答えがわかります。なぜ速く泳げたのか？ なぜ勝てたのか？ なぜ教授になれたのか？ なぜ医療創生大学にいるのか？ 今、スポーツの世界で何が起きているのか、これから何が起きようとしているのか？ 頂上に登ると山の裏側の景色も見える！ 世界一には世界中から招待状が届く！

難しいことに挑戦しないと未来は開けない。競技スポーツには、技を磨き、心を耕し、体を鍛える魅力があります。世界新記録を作る技の秘訣や、本には書けないコツ、トップアスリートを目指すための必須条件を解説します。オリンピックへの道で何を考え、そこで実際に何が起きているのか。考え方や見方、自らが考えるアスリート哲学、金メダルへの執念などを、科学の視点から論理的に展開し、事例をもとにわかりやすく紹介します。これから未来を担う若者へお伝え頂けると幸いです。

教訓・キーノート

1. 頭に何を入れるかで、考え方も人生も変わる！
知識も食べ物も、偏らないことが健康には良い
2. 学ぶは真似ることから始まる。スポーツの物真似には価値がある！
スポーツの技には、知的財産としての価値がある。
3. ドアはロックしないと開かない。先人の知識と情報は活用すべき！
恩師や先輩、後輩、役所、企業は母校と繋がっている。すべてが宝物！
4. 物事の仕組みを論理的に考える習慣を！
「なぜ」を5回以上繰り返そう！『いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、誰に、どのよう
に、どうやって、いくらで、どのくらい』を意識すること。
5. 自分の居場所がわからなければ、地図とコンパスがあってもどこにも行け
ない！
自分を知ることは宝探し。素質や資質、向き不向きは調べてみよう。
6. 的がないと打てない。一生涯を貫く志や仕事を持つことが一番楽しい！
図書館、特許庁情報、研究論文検索はChatGPTを活用して、目的を見つけよう！
7. 人は忘れる。忘れても思い出せる工夫を！
最も難しいのは継続すること。習慣は第二の素質であり、継続は夢の実現に繋がる！
8. 人生には様々な壁がある！
五輪の壁には「基本の壁」「流れの壁」「誘惑の壁」「限界への壁」「運の壁」がある。
スポーツは「運」が動く大運動会。運は自ら作るもの、神様の視点で考えてみよう！
『焦らず、慌てず、諦めず、侮らず、当てにせず』。
夢を実現するには、チャンスを逃さず、すぐに行動することが大切！

『オリンピックの魅力・金メダルの取り方、取らせ方』

文：田 口 信 教

皆様こんにちは、貴重な時間を頂き、感謝申し上げます。

金メダリストになりますと、様々な人から色々な質問を受けます。聞かれたことで、初めて気づくことがたくさんありました。なぜ、世界新記録が出せたのかと聞かれますと、「人より手を速く動かしたただけです」と答えます。すると、なぜ手を速く動かせたのかと聞かれます。また、「運が良かったからです」と答えると、なぜ運が味方したのかと、なぜ、なぜが続きます。御利益のありそうな神社仏閣へ行って、お賽銭をたくさん入れ、拝み倒していました。それを見た監督が「神様には贈収賄は効かないよ!」と言ったのです。確かに、と思いました。神様の立場に立って考えなさいと教えられ、それ以来、神様だったらと神様の立場で考えて行動したことが、運につながったと思います。運も重要な要素だと思いますが、最も大きな要素は、建設会社のフジタがオリンピックでメダルを取るためだけに、世界一の練習環境を提供してくれたことと、私にとって最高の指導者を与えてくれたおかげだと思っております。

山の頂上に登ると、山の反対側の景色も見せてもらえるように、おかげで世界中を見て回ることができ、色々な人と知り合えました。本日も、貴重な体験をさせて頂いております。このような経営者の集まる会で、このような機会を頂くことができ、大変光栄に思います。

話は、金メダリストになるまでの道で体験したことと、その後の人生で学んだことです。

まず、金メダリストの育て方の基本は、「金メダルが取れる」と信じさせることだと思えます。思っているだけと、なれると信じているのとでは、成功率に100倍の違いがあると思えます。この大きな違いは、頭に入る情報によって作られると思えます。私の場合も、頭に入れた情報によって人生が大きく変わりました。世の中には説得の上手な人がたくさんいますが、私の監督もその一人だと思えます。それでは、どのようにして信じさせたのか、お話ししたいと思います。

意識が大きく変わるきっかけは、監督が「いいこと教えてあげようか」と言って近寄ってきて、「泳ぎ方には基本がある。我流で泳いでいると間違った泳ぎが身につくぞ!」と言われたことです。泳ぎも字の練習と同じで、下手な泳ぎが身につくぞ! と言われ、監督は耳元でゆっくりと小さく、秘密を漏らすように「世界一の泳ぎ方をカンニングしてもいいんだよ!」と言うのです。確かに、カンニングしろとは大きな声では言えない。カンニングがOKと言われ、これはいいことを聞いたと思えました。泳ぎ方に興味が湧きました。昔の世界一ではなく、今の世界一の泳ぎを真似るのだよ、と。30年前の世界一は、今では中学生が泳いでいるよ、と言われ、皆さんも泳ぎ方に興味が湧きませんか?ギリシャのアテネで第1回のオリンピックが開催された時に、100m自由型の優勝記録は1分22秒2です。現在は46秒8。人類は泳ぐ速度を倍に進化しています。日本で初めての東京オリンピックが開催され、テレビ中継がされ、世界一の泳ぎを見て、これは大きな違いがあると思えました。市川崑さんの東京オリンピックの映画を何度も見に行きました。水の抵抗が少なく、見た目に美しく、カッコがいい。腕の動作も手首の使い方も、顔の向きや頭の動きに合わせた呼吸のタイミングも、すべて真似しないと損だと思えました。泳ぎの仕組みが分かると、鏡を水中に入れて泳ぎを習得しました。世界一の泳ぎをカンニングしたおかげで、意外と簡単に中学3年生で高校生を上回りました。

監督の説明では、日本水泳連盟に登録をしている人が約10万人もいるが、世界一と同じ練習をしている選手は400人もいない。本気で行なうと、戦う相手は世間で考えられているほど多くはない。競泳は男女合わせて40種目もあり、男子の100m平泳ぎだけで頂点を目指す選手は40分の1だから、ライバルは10人もいないというのです。おまけに、その中には引退間近の先輩選手もいるので、10年もやっていたらオリンピック選手になれるよと、気楽におっしゃいます。特に、速く泳ぐ原理は船と同じで、水の抵抗が少ない姿勢で泳ぐこと。どうすれば水の抵抗を少なくできるのかと聞くと、「滑らかで無駄のない動作と体重の減量、積荷を軽くすることで水の抵抗は少なくなる」と言われ、確かに体重の1割程度の減量なら難しい話ではないと思いました。さらに「水を速くかけば速く進む」とのことでした。船が速度を上げるにはスクリューの回転速度を上げるように、水をたくさんキャッチした手を速くかけば速く進む、簡単な問題だとおっしゃいます。

また、「記録をパーセントで比較しなさい」と言われ、世界一との差を比較して「約8%程度の差があります」と答えると、「体重を1割減らして、腕を1割速くかけば、お前は世界一になれる。お前ならできる、頑張れ」と簡単におっしゃいます。数回か掻くだけなら倍の速度で水を掻くことは可能ですが、100m泳ぐには42回の動作が必要です。速くかけば速く進むと言われ、なんとなく1割ほどなら速くできそうな気がしました。水泳は体格に関係なく、最も金メダルを取りやすい種目。今がチャンスだとおっしゃいます。

広島大学の医学部を卒業し、経営学修士まで持つ監督の話です。監督がギネスブックの記録を示しながら、「世界一と一般人との差は10倍以上あるのはなぜか？ 動物にはその差がないのはなぜか？」と聞かれました。私に聞かれても分かるわけがないのに、多くの人は世界一との差を見せつけられると、素質が違いすぎると始めから諦めてしまいます。

なぜ？ この差が生まれるのか、仕組みが分かると手品の種明かしののように、そんなことなのかと思える話でした。動物は訓練をしなくても、生まれながらに強力な腕力を持ち、その能力はなまけていても死ぬまで維持されます。しかし、更なる能力アップを求めてトレーニングをしても人間ほどはレベルアップはしません。動物の強さは血統で決まるのだと言われました。人類、ホモサピエンスだけが、生存が脅かされた時に素早く環境に適応する能力を持つ。その点が人と動物の大きな違いだと言ひ、人間は逆に、その能力を使わないと、その機能は萎縮し失われてしまう。皆様もご存じの通り、環境の変化に応じてDNAスイッチがオン・オフを行い、新しく細胞が作られる仕組みの話です。人間だけが環境に素早く適応する能力を持っている話ですが、当時はその仕組みはよく分かっていませんでした。

監督がおっしゃるには、生存が脅かされる環境とは限界への挑戦の話です。普通に泳ぐだけでは血尿が出るところまで筋力を刺激することはできません。筋力アップも望めません。私は1割速く泳ぐために無駄な動作を減らし、体重を1割減らし、脳内環境に危機的な状態を作り出し、血尿が出るまで筋力を鍛えました。現在の世界新記録保持者、アダム・ピーティー選手のような筋力は、普通に泳いでいたのではつきません。私はバケツを引きずって泳ぐ練習を行いました。最近では腕の血流を圧迫する加圧トレーニングなども効果があります。筋繊維を極限環境に追い込む必要があります。掻く動作に必要な筋肉や動きはすべて解明されています。ご存じのように、指先から足先まで全身の連携動作によって泳いでいます。加速性の3次元的動作によって泳いでいます。ボールを速く投げるための仕組みと同じです。指先から足の指先までの連携動作によって豪速球が生み出されて

います。これらの筋力を一度に強化する便利なトレーニングマシンはありません。部分的に強化していく方法以外にはないと思います。強化したい筋細胞から血尿が出るまで鍛える訓練方法に工夫が求められ、その方法に価値があります。

私は現役時代、息を4分半ほど止めることができましたが、水中で息を止める世界一は24分間です。嘘ではありません。皆さんもスマホで世界一を調べてみてください。信じられない記録が見つかります。なぜそんな能力を身につけたのかというと、息を止めて潜水を行う海女さんやディープダイビングの選手などは、脾臓に蓄えられた血液から酸素を得る能力を獲得しています。酸素カプセルや高圧酸素治療における効果のように、水圧という特殊環境から獲得した身体能力です。

昔、オリンピックのマラソンで史上初の2大会連続優勝を果たしたアベベ選手がなぜ強いのか、彼が空気の希薄な高所環境下で暮らしていたことが分かり、その後、多くのアスリートが高所での低圧低酸素環境下でトレーニングを行い、世界新記録が更新され続けていることはご存じのことと思います。

私は懸垂を70回、腕立てを300回できましたが、世界一はその10倍以上です。人間は鍛え方によって、強くも弱くもなれる能力を持っていると分かっている、この能力を活用しないのはもったいないと思いませんか？

空手家がトンカチで拳を叩いて鍛える話や、鉄の爪エリックの握力が120kgだと聞かされ、「お前の握力は、なんでそんなに弱い。チンパンジーでも300kgはあるぞ」と言われ、鍛え方が足りない、血尿が出るまで頑張らないとパワーアップしないぞ、でした。

また、頑張るだけのメリットがある話も「ここだけの話」と耳元で囁かれました。言われるままにその気になってやってみると、意外と簡単に、1968年のメキシコ・オリンピックの選手に17歳で選ばれました。オリンピック選手になれば宝くじに当たったくらいのお金が手に入り、そして女子にホテルという話は本当でした。頑張るだけのメリットがありました。

監督は、限界への挑戦を継続するための心得として、「流れる川を昇っていく魚のようなもの。泳ぐことを止めると川下に押し戻される。上流に登れば登るほど、その流れは滝のように速くなる。一挙に頂上まで登りきることがコツだ」とおっしゃいます。限界への挑戦を繰り返し続けることが、唯一身体能力を増強できる方法だと言われました。監督から、大きな一枚の25年間使用できる人生カレンダーを渡され、人生の締め切りを決めて考えろと、カレンダーの使い方について指導されました。監督が「余命半年と言われたら、残りの人生、何をするか考えると物事の価値や優先順位が見える」と言われ、渡されたカレンダーに「余命を25年」と思って予定を書き入れました。目標を書き入れる大きな日の丸の旗も渡され、世界一と書いて机の正面に貼りました。目標が鮮明にイメージでき、具体的でワクワクする写真や絵なども貼るように言われました。1週間単位の段階的達成目標など、実行可能な工程表を詳細に書き込んだ行動計画書も作られました。

朝、目が覚めた時、ベッドに寝た状態で目に入る天井にもオリンピックの表彰台の写真を貼り、その一番の台に、にっこり笑った自分の写真と好きな女優の写真を貼りました。また、ベッドの横の壁にA1の用紙を貼り、泳いだ距離が一目でわかるように、黒く太いマジックペンで棒グラフのように10km泳いで10cm書き入れ、日々記録し続けました。地球一周の距離を泳ぐことになり、棒グラフが縦縞模様の壁紙のように長い記録となりました。監督に「元を取らなきゃ損だ!」と言われ、書き

続けましたが、その縦縞模様の棒グラフを見ていると、確かに途中で止めると本当に損だと思いました。泳いだ距離、苦痛の痕跡を目に見えるように残すことは、継続のために重要な要素だと思います。

また、やる気を起こすコツは五感を刺激する仕掛けを持つことだと教えられました。真冬の寒い早朝にプールに入ると思っただけで泳ぎたくなくなります。そこで起床時間前に電気毛布にスイッチが入る仕掛けを持つことで、布団の中が真夏のように暑くなり、プールに飛び込みたくしました。監督が「嫌なことを考えるな。嫌なことが増幅されるから。頭は一つのことしか考えられない。ネガティブなことは考えない。考えることを切り替えれば済む問題だ」と簡単におっしゃいます。女優が演技で涙を流す時、悲しいことを頭で考えているから涙を流せる。俳優にできて、お前にできないわけがない。楽しくてワクワクする、やる気が出ることを考えろ、とおっしゃいます。朝の目覚ましにはやる気が出る音楽を流しました。音楽がいかに脳に影響を与えるか、ご存じのことだと思います。勇ましい曲は間違いなく思考が前向きになり、やる気を起こします。

監督の指導方法は、視覚や聴覚など心理的効果を活用したものだったと思います。私は、監督の言われるままに、目が覚めたら全力で限界まで泳ぎ、腹いっぱい食べ、満腹になると眠くなりました。完全休息が必須と言われ、授業中もお構いなく昼寝も入れ、12時間は寝ました。寝て、食って、泳ぐ、そんな日々を続けていると、皆さんどうなると思いますか？水泳は強くなりますが、完全にバランスを欠いたアホが出来上がります。そんな時、監督から一言、「有名になればなるほどバランスを欠き、劣ったところ、アホも有名になるよ！」と言われました。これは大変なことになると思い、対策をとってくださいとお願いしたら、学校で私が座る席が一番前の真ん中の席になりました。つばが届く距離です。眠らせてくれない環境でした。私が眠そうな顔になると、教壇に立つ先生が頭を叩いて起こしてくれます。おかげで、落ちこぼれることはなく、卒業できました。

頑張る選手には、好きなだけ行える環境が提供されます。しかし、人としての基本を習得しなければならない成長期です。好きなことだけを行っていて、問題が起きないわけがありません。監督が、「肥えた大地に種を植え、太陽と水が十分に注がれると、何が起きると思うか？」と聞かれ、何の話かと思うと、「雑草が生え、養分が取られ成長を妨げる」と話されました。特に、木に巻きつき、成長を妨げる雑草を摘み取るのが監督の仕事だと言って、私に届いた花柄の手紙、ファンレターを回収していくのです。日本一になったころからファンレターが届きましたが、世界一になった頃には女性週刊誌にも取り上げられ、取材で「好きなタイプは」と聞かれ、つい「ふくよかなタイプ」と答えたことで、ぼっちゃりタイプの女性から大量にファンレターが届きました。そのファンレターの山を前にして、監督が「愛されたいか、愛したいか」と聞くのです。「お前は、愛したい人と一緒になりたいか、それとも愛してくれる人に捕まりたいか」と聞かれました。このファンレターは「お前を捕まえるための手紙だ」と言われ、選べるのは一人だけだよ、と教えられました。そして「慌てて選ばない方がいい。後からもっと、もっといい人が現れる。おいしいメイン料理は後から出る」と説得され、ファンレターをすべて回収されました。

また、持ち慣れないお金を持つと色々と問題が発生します。山の頂上までたどり着くまでに、様々な誘惑が待っていましたが、監督の対策のおかげで無事に登ることができました。

最も大変だったのは、限界への挑戦を継続することでした。「リスクのないトレーニングに効果はない」というのが監督の言葉でした。一つ間違えると壊れ、すべての努力が失われる危険な挑戦です。生命の危機的状態と脳が判断するところまで行わないと、競技能力の限界レベルはアップされません。

選手を引退後、指導する立場に立ったとき、限界への挑戦がいかに危険で難しいことかよく分かりました。安全に行う方法はないか、悩みました。国立で唯一の鹿屋体育大学の開学に合わせ、45年前に教官として招聘されたとき、スイッチ一つで安全に低圧低酸素環境が作れ、その中で泳げる流水プールを備えた室内実験プールを国に作って頂きました。定年退職までの35年間、極限環境が人に与える影響について、鹿児島大学の医学部の皆さんの協力を得て研究を行ってきました。その成果としてアテネオリンピックで800m女子自由形金メダリス柴田亜衣選手など多数のオリンピック選手を輩出できました。

今日では、アスリートの多くが低酸素室でトレーニングを行い、必要以上に酸素摂取能力を向上させることに成功しています。しかし、その摂取した酸素とエネルギーを必要としている筋肉や臓器に運ぶための循環機能、心臓の能力アップに皆さん苦しんでいます。スピードとスタミナは、循環機能によって制限されます。心筋が収縮する速度と力には限界があると言われ、最大心拍数は毎分約200回が限界とも言われていますが、ネズミの最大心拍数は約800回です。ハチドリでは1,200回を超えとも言われています。アスリートの最大心拍数を1割でもアップさせることができれば、世界新記録を沢山生み出せることになります。

限界への挑戦という危険で過激なトレーニングを繰り返すことで、少しずつですが能力が向上しますが、限界への挑戦は故障の原因にもなり、多くの選手が競技生活を断念する結果を生んでいる原因でもあります。心筋を安全にパワーアップさせる方法を模索している時に、NASAのスペースシャトルでの無重力環境下での滞在が始まり、人体が一度も経験のない宇宙という環境に驚くほど素早く適応する報告がなされました。骨密度の低下や筋肉が32%も萎縮するなど、宇宙にいる間に変化した遺伝子、DNAスイッチが、過半数の9,000個以上も変化したと報告されています。無重力環境下に滞在するだけでDNAスイッチが入り、修復ホルモンが出され、骨密度や筋肉が驚くほど素早く変化するなら、皆さん、無重力環境下の逆の環境、過重力環境でも同じ現象が起きるはずです。人類、ホモサピエンスだけが唯一持つ、環境に素早く適応する能力の活用です。これは加齢による老化した細胞の若返りにも活用できるはずです。過重力環境は、遠心分離機のような回転装置を使うことで簡単に作り出せます。皆さん、そう思いませんか。漫画『ドラゴンボール』の重力トレーニング室は、この話が元になっています。

地球は回転しているため、逆立ちすると1重力環境を体験できます。2Gでは地球の引力の2倍、体重が2倍になります。2Gでは心臓が血液を十分に脳に送り出すことが難しくなります。さらに3G環境下では立つことも難しくなり、Gが増すと視界が徐々に狭まり、色彩が失われます。5Gでは視界が完全になくなりますが、音を聞き考えることができます。8Gでは体を動かすことが難しくなり、12Gを超えると多くの人々が意識を失う環境になります。脳はすべての臓器の中で常に酸素とエネルギーを優先的に供給される仕組みを持っていますが、過重力環境下では脳に危機的な状況を人工的に作り出すことができます。心臓のポンピング能力の強化を促し、血液循環に直接影響を与えます。現在、アメリカ空軍では、7.5Gに15秒耐えられないと戦闘機のパイロットにはなれません。彼らは回転式遠心分離器での訓練を行い、心筋を強化しています。20Gに耐えられるパイロットもいるそうです。

脳内環境に安全な体制で危機的な状態を人工的に作り出すことができる過重力環境施設です。脳が生命の危機と判断するレベルまで身体を追い込むことで、身体能力の限界レベルを引き上げるこ

とが可能になります。これが過負荷（オーバーロード）の原理です。スピードスケートの清水博康選手の太ももの周囲は約70cmと言われていたのですが、その発達した太ももは血尿が出るまで苦痛に耐えた結果です。皆さん、鍼灸院では針を刺して細胞を刺激し、治療効果を得ています。体温を42度まで上げる温熱療法はウイルスやがんの治療にも使われています。入浴やサウナ、砂蒸しも苦痛を伴う特殊環境ですが、適切に利用すれば疲労回復や健康促進に役立ちます。DNAのスイッチをオンすることで、新しい細胞が作られ、若返りにもつながります。人類が持つ、唯一の適応能力に安全にスイッチを入れる方法です。それが過重力環境だと気づき、すぐに東北大学、鹿児島大学、宮崎大学、鹿屋体育大学の4大学の連携で国に過重力環境施設の建設を申請しました。施設建設の概算は、元・防衛庁技術開発本部の田中厚成工学博士や三菱重工の協力を得て予算申請を行いました。残念ながら研究実績や研究者が不足していたため、予算はつきませんでした。現在は、葵会の医療統括局長である松岡健医学博士の紹介により、元・防衛医科大学特殊環境衛生研究部門教授の藤田真敬医学博士や、元・JAXA有人宇宙技術部門総括医長の三丸敦洋医学博士の協力を得られる体制が整っています。また、過重力環境トレーニング施設の特許申請を2018年に提出し、4年の審査を経て昨年の9月に特許第7134463号が認められました。

身体を鍛える仕組みとして新しい筋力や細胞を作り出すもので、若返りにも利用できる可能性があります。老化防止のメカニズムも「苦痛」と「回復」の繰り返しで条件であり、不老長寿、アンチエイジングの研究者の共通した見解です。過重力環境の研究は、植物や動物から人の健康、競技力向上まで幅広い分野にわたるため、さまざまな研究が進むことが期待されます。

スポーツ選手による経済的効果は、野球の大谷翔平選手の活躍などで皆さんもご存じのことと思います。彼らが獲得した収入の納税は、住民票を置いている地域に納められ、その収入の50%が税金として地元に戻元されます。

スポーツは税収だけでなく、さまざまな経済効果をもたらす魅力的な産業です。地域経済の活性化に、スポーツ活動は大いに貢献できるのではないのでしょうか。

例えば、競技大会への参加者が支払う参加料が増えると、賞金も高額になる仕組みがあります。また、スポーツ施設のVIP席は全座席のわずか5%ですが、そこから収益の70%がもたらされるという仕組みです。さらに、スポーツ選手は突然有名人となり、露出度によって収入が変わる仕組みも存在します。オークションとガラガラポン、くじ引きの違いのように、仕組みや方法が変われば結果も大きく変わります。

皆様、いつまでも元気で長生きできる体を手に入れませんか？ 過重力環境を活用することで、安全に細胞の若返りを効果的にもたらしてくれる装置になるのではないのでしょうか。また、競技スポーツで頑張っている選手の皆様にお役に立てるのではないのでしょうか。

現在、フジタの協力を得て過重力環境トレーニング施設の実現に向け、活動を進めております。ご列席の皆様、実現のためのお知恵を授けて頂けると助かります。この施設を作るにあたっては、産学官民の連携で行いたいと考えています。ご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、終わりにしたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。